中国中学校体育連盟軟式野球部 大会運営に関する取り決め事項

中国中学校体育連盟軟式野球部
2023.4.1

趣　　旨

本連盟では、中学野球を通じて規則、規定の遵守とマナーの向上を図り、健全な青少年を育成するための一環として、下記の取り決めを決定する。

【 大会実施にあたって 】

（１）各県内の大会にあたっては、中国中学校軟式野球選手権大会の「実施要項」および「取り決め事項に準じて、要項・大会規定を作成し、大会を運営する。

（２）各県、各地区、各支部大会の実情において、本規定と異なることがあれば、大会特別規定を設け、大会を運営する。

【 競技を行うにあたって 】

（１）「野球規則」及び「アマチュア内規」及び（公財）全日本軟式野球連盟「競技者必携」及び本規定による。

（２）使用球は、（公財）全日本軟式野球連盟公認球Ｍ号とする。

（３）使用器具は（公財）全日本軟式野球連盟公認のものとする。試合前には担当審判員は、両チームの用具の点検を行う。両チームは審判員の指示に従う。

（４）トーナメント方式とし、試合は７回戦とする。得点差によるコールドゲームを採用する。（５回以降７点差）。また、試合時間の制限は行わない。
（準決勝終了後、決勝戦の開始までには６０分間以上確保する。）

（５）７回をおえて勝敗が決しないときには、次のようなタイブレークを行う。
［ タイブレーク方式 ］
継続打順で前回の最終打者を１塁走者とし、２塁の走者は順次前の打者とする。
すなわち、無死１・２塁の状態にして１イニング行い、得点の多いチームを勝ちとする。勝敗が決しない場合は、さらに継続打順で得点差が生じるまでこれを繰り返す。なお、規定によって認められる選手の交代は許される。

（６）暗黒、降雨などの天候状態によるコールドゲームは５回以降の得点をもって勝敗を決定するが、試合の規定により不成立の場合、または同得点の場合は、翌日特別継続試合かまたは再試合にするかなど審判員と大会本部で協議し決定する。

（７）天候等による大会の実施の可否、試合の中断及び日程の変更は、大会本部で決定し連絡する。その際、会場を変更したり、ナイターで試合を行ったりする場合もある。

（８）ベンチは組み合わせの番号の若い方を１塁側とする。

（９）試合を行っているチームの行為が原因で、試合続行が不可能となるようなトラブルが発生した場合は、起こしたチームが責任を負うべきであるから、相手チームに勝利を与える。

(10) 選手の頭髪・身なりなどは中学生らしく、試合中はもちろんのこと、スポーツマンらしい態度で大会に参加すること。

(11) 応援団については監督が責任を持つ。

【 試合開始前 】

（１）監督に引率されたチームは、試合開始予定時刻１時間前までに会場に到着し、その旨を大会本部に申し出る。試合開始予定時刻になっても到着せず何ら連絡がない場合は、棄権とみなす。交通事情による到着遅延については、大会本部で協議し決定する。

（２）打順表交換及び攻守決定は、第１試合は試合開始４０分前まで、第２試合以降は　前試合の４回終了時とする。但し、第１試合前に開会式がある場合や勝ち上がりのチームが続けて試合をする場合は、本部で決定し連絡する。監督と主将は打順表を持参し、大会役員・担当審判員と打ち合わせをする。（打順表数については監督会議にて指示する。）

（３）球場内におけるウォーミングアップは登録選手のみの参加とする。

（４）シートノックについては以下の通りとする。

① 試合当日の最初の試合のみとするが、球場が変わった場合はこの限りではない。
② 時間は７分以内とする。状況によっては短縮または省略することもある。
③ 後攻チームが先に行う。
④ 登録選手の他に３名の補助員をつけて行うことができる。補助員は両耳付きヘルメットを着用する。補助員はノックの補助員でありブルペン捕手は出来ない。
⑤ ノッカーは原則として監督、コーチに限り、上限２名以内とする。ノッカーは選手と同一のユニフォーム・スパイクを着用する。
⑥ 相手チームがシートノックをしている時はベンチから出ない。ただし、先発投手のブルペンでの投球練習と、終了２分前の通告後のベンチ前でのキャッチボールや準備運動は認める。バットを持っての運動は禁止する。）
⑦ マウンドは使用しない。

（５）ベンチ入れ替わり時、シートノックの準備ができるまでの時間や、シートノック終了時の試合開始の準備時間には、ベンチ前でのキャッチボールや素振り、準備運動をすることは認める。
（但し、バットを使用する際には監督、選手ともに細心の注意をして行うこと。）

【 試合中 】

（１）試合の開始に主将同士の握手をする。その後、あいさつをする。

（２）選手交代の申し出は監督が行う。

（３）審判員のルール適用に対する疑義の申し出は、監督または当該選手に限る。
審判員の判定に対しては抗議できない。

（４）ベンチ内でのメガホンは監督用として、１個のみ使用を認める。

（５）ベンチまたはダッグアウト内は禁煙。サングラス、グラウンドコートの使用は原則として認めない。（季節に応じてグラウンドコートの着用は認めることもある。）

（６）コーチは試合前のシートノックの時以外はベンチから出ないものとする。

（７）選手以外はコーチスボックスに入ることはできない。

（８）規則５．１０（Ｄ）原注「投手は同一イニングで投手以外の守備に２度以上つくことは許されない。」は適用しない。これについては、中学校野球では登録人員の関連で適用しないものであるので、これを作戦上の目的など本来の趣旨からはなれて使用することのないように留意しなければならない。

（９）交代して退いた選手も、ウォーミングアップの相手やベースコーチにつくこと、伝令をすることは許される。

(10) 投手（救援投手を含む）の準備投球数は初回に限り７球以内（１分を限度）が許される。次回からは、３球以内とする。ただし、状況により審判の判断で考慮することもある。また、正捕手の装具準備時において２球を過ぎる場合、予備捕手は立って捕球する。

(11) 走者・ベースコーチ・ベンチから、球種などを打者に知らせるためのサインを出すことを禁止する。

(12) プレイヤーが負傷の治療などで、一時走者を代えないと試合の中断が長引くと審判員が認めたときは、相手チームに事情を説明し、臨時の代走者を許可する。臨時代走者は打順の前位の打者とするが、投手を除く。

(13) ブルペンでの投球練習、交代の野手のキャッチボールなど必要以外の選手は、ベンチから出ない。

(14) 次打者席には必ず次打者選手がいること。

(15) 本塁打を打った打者走者にベースコーチが握手を求めたり、ベンチにいる選手が握手を求めるためにグランドに出てはいけない。

(16) 次の試合のバッテリーの投球練習については、先発バッテリーに限り、攻守決定後試合に差し支えないようにブルペンでの投球練習を許可する。球場設備の関係でその必要を認めない場合は監督会議において、そのことを徹底する。

(17) 危険防止のため、次のことを徹底する。

① 足を高く上げてのスライディング、体当たりは厳禁とする。現実に守備の妨害になったと審判員が判定したときは、走者をアウトにする。ラフプレー等、スポーツマンとしてふさわしくない恥ずべき行為は厳に慎むこと。スポーツマン精神に反するアンフェアーなプレーを故意に行ったとみなしたときは、その選手を試合から除くことがある。

② 捕手はレガーズ・プロテクター・ヘルメット・スロートガード付きマスク・ファウルカップを着用する。投球練習を受ける控えの捕手についてもヘルメット・マスクは着用する。これは、ブルペン捕手も同様である。
③ 打者・走者・次打者・ベースコーチは両耳付きのヘルメットを着用する。
④ その回の先頭打者は、準備投球が終わるまで次打者席で待機すること。
⑤ 試合中のグランドでは、打席に入る打者と次打者席内の者以外は素振りをしてはいけない。
⑥ 空タッチは禁止する。現実に走塁妨害と審判員が認めた場合は、オブストラクション（２）を適用する。
⑦ 捕手または野手が、明らかにボールを持たずに塁線上および塁上に位置して、走者の走路をふさいだ場合は、オブストラクションを厳格に適用する。なお、捕手または野手が、たとえボールを保持していても、故意に足を塁線上または塁上に置いたり、または脚を横倒しにするなどして塁線上または塁上に置いたりして、走者の走路をふさぐ行為は、大変危険な行為であるから禁止する。この行為により、正規にタッグされればその走者はアウトになるが、審判員は捕手または野手に対して厳しく注意する。

(18) 試合進行や大会運営の円滑化のため次のことに留意する。

① 無用なタイムをとることを慎む。またタイム中以外にみだりにベンチから出てはならない。
② 攻守交代の時は、投手または投手板に一番近い野手がボールを投手板付近に置くこと。
③ 攻守交代の時は、全力疾走で行う。
④ 内野手間の転送球は一回以内とし、投手への返球は守備位置から行うこと。
(試合進行上禁止することがある。)
⑤ 打者は速やかに打者席に入って打撃姿勢をとること。また、むやみに打者席をはずさず、サインは打者席内から見る。 打者席に入るときの挨拶ではヘルメットをとらない。
⑥ 投手は必ず軸足を投手板につけて捕手のサインを見ること。
⑦ 先頭打者とベースコーチは、攻撃前のミーティングには参加せず、駆け足で位置につく。
⑧ 守備側からのタイムで試合が中断したときは、その間投手は捕手を相手に投球練習してはならない。
⑨ ツーストライク後のカットは故意と審判員が認めたときはバントとみなす。
⑩ 捕手はイニングのはじめに野手に声を掛けるためや投手に返球するためにホームベースの前に出ないこと。
⑪ 出塁した際、バッティンググラブをベースコーチに渡さない。

(19) 選手はベースキャンバスに腰をおろすことを禁ずる。

(20) 監督が投手のところに行く回数の制限　規則５・１０（１）関連

① 「投手のところに行く」とは、監督がタイムを取ってグラウンドに出て、投手または投手を含む野手が集まっている所で指示を与える状態を指す。投手の方からファウルラインを越えて監督の指示を受けた場合も同じとする。
② 伝令を使うか、捕手または他の野手に指示を与えて直接投手のところに行かせた場合もあてはまる。
③ ボールデッド中で改めてタイムを取る必要がない状態の時も、同じ行為であれば回数に数える。
④ 監督が、同一イニングに同一投手のところに２度目に行った場合、投手は交代となる。但し、交代した投手が他の守備位置につくことは許される。
⑤ 監督が投手のところへ行ける回数は、７イニングの試合にあっては３回以内とする。
⑥ タイブレークとなった場合は、１イニングに１回とることができる。
⑦ 監督が投手のところへ一度行くか行ったとみなされた場合は、球審は、あと一度行けば投手を交代させなければならない旨を知らせる。なお、一度目に知らせなかった場合は、二度目に行こうとしたとき、球審はその旨を知らせなければならない。ただし、球審が知らせなくても、監督が、同イニングに同一投手のところへ二度行くか、行ったとみなされた場合は、投手は自動的に交代することになる。

(21) 守備のタイムに関わる制限

① 捕手を含む内野手が投手のところへ行き守備のタイムをとる回数は、７イニングの試合にあっては３回以内とする。
② 野手（捕手も含む）が投手のところへ行った場合、そこへ監督が行けば、双方一度として数える。投手交代の場合はその回数に含まない。（監督が先に行った場合も同様とする。）
③ ボールデッドで改めてタイムを取る必要がない状態の時も、同じ行為であれば回数に数える。
④ タイブレークとなった場合は、１イニングに１回とることができる。
⑤ 集まれるのは投手と捕手を含めた内野手、伝令だけとする。
⑥ 攻撃側のタイム中に守備側は指示を与えることができるが、攻撃側のタイムより長引けば守備側の１回とカウントされる。

(22) 攻撃のタイムに関わる制限

① 攻撃側のタイムをとる回数は、７イニングの試合にあっては３回以内とする。
② タイブレークとなった場合は、１イニングに１回とることができる。
③ 守備側のタイム中に攻撃側は指示を与えることができるが、守備側のタイムより長引けば攻撃側の１回とカウントされる。

(23)　投手の投球数制限について

①　大会中の１日の投球数…　100 球以内
②　１週間の投球数…　350 球以内
③　試合中に 100 球に到達した場合は、その打者が打撃を完了するか、攻守交代まで投球できる。
④　タイブレークになった場合、規定投球数以内で投球できる。

【 試合後 】

（1）　各チームの監督は、試合終了後に大会本部に連絡し、次の試合日程や連絡事項の確認を行うと。

（2）　試合の終了時に主将同士の握手をする。その後、あいさつをする。その後速やかにベンチを空ける。ただし、応援席への挨拶は認める。

（3）　原則として、試合の終わったチームは、グラウンドの整地、ベンチ内清掃とスタンドの清掃をすることとする。（大会によっては本部の指示に従うこと）

【 その他 】

（1）負傷でテーピング等をしている選手は、打順表提出時または攻守決定時に審判員の承認を得ること。露出する部分については肌の色に近いものを用いることが望ましい。投手は投球時にボールに触れる部分と露出する部分については禁止する。

（2）　プレーヤー、審判員に対する野次や暴言等は厳禁する。また、相手プレーヤー、審判員に対して暴力行為などがあってはならない。万一、このようなことが起こった場合は、没収試合とする。

（3）　応援団は次の事を守って応援すること。

① 応援はあくまでも自チームの応援であって、野次など相手チームや選手が不快な思いをいだくような言動は禁止する。
② 太鼓等の鳴り物やブラスバンドの応援を認めるが、自チームが攻撃している場面での応援とする。自チームが守備側の時は座っていることが望ましい。
③ 紙吹雪・紙テープ・個人名を書いたのぼりを使うことを禁止する。
④ 応援席を散らかさず、ゴミは持ち帰り、美化に心がける。
⑤ 試合を妨害するような応援はしない。
⑥ メガホンを使用してもよい。
⑦ 投手が投球動作を起こすと同時に、喚声をあげたり、鐘、太鼓、笛を鳴らすなどの応援は慎みたい。また、四死球やワイルドピッチ・パスボールなどの時も同様に慎みたい。
⑧ 拡声器や音響機器の使用は禁止する。
⑨ スタンドや客席にテントを張る場合は、監督の責任の下、安全に十分に留意する。

（4）　投手が投球動作を開始したら、投手の動揺を誘うような声を発しない。

（5）　監督・コーチ等の服装については次の通りとする。

① 監督・コーチは選手と同じユニフォームを着用し、監督は背番号３０をつけるものとする。コーチは背番号２８・２９をつける。また、選手と同じ色のスパイクを履くこと。
② コーチではない教員がベンチ入りする場合は、平服（ポロシャツ・または白いワイシャツ）に選手と同一の帽子とする。

（6）　ユニフォームの着用にあたっては次の点を注意する。

① 背番号は、一桁までは原則としてポジションを示す数字であり、全員が続き番号であること。
② だらしない着用は認めない。
・上着の裾を出さないことはもちろん、たるませずベルトが見えるように着る。
・パンツの裾はストッキングのふくらはぎの部分が見えるまで上げる。
・肩の部分をたくしあげない。
③ サングラスは使用しない。（但し、健康上の理由及び球場の条件によって大会本部で協議し認める場合もある。）

（7）　特記なき事項については、公認野球規則、（公財）全日本軟式野球連盟の競技者必携、アマチュア野球内規に準拠する。また、用具・装具の規則については、中国中体連軟式野球部用具・装具規定に準ずる。

【 付 記 】

この取り決め事項は平成２２年４月１日より施行する。

平成２９年度より大会要項　９参加制限（１）（２）が下記のように変更される。

（１）ベンチ入りできる者は監督（引率責任者）１名、選手１８名以内（スコアラーを含む）とする。また、この他に教員を２名追加することができる。但し、外部指導者（コーチ）が入る場合は１名とし、計２１名以内とする。
（２）選手は同一のユニフォームを着用し、背番号は１～１８（スコアラー）を含むとする。監督、コーチは選手と同一のユニフォームを着用し、監督は背番号３０を着用し、コーチは２９・２８をつける。（Ｈ２９年度全国大会では適用）

Ｈ２３．８．６　上記変更に伴い、本文より部長という言葉を全削除した。
【競技を行うにあたって】（11）　【試合開始前】（１）（４）⑤
【試合中】（７）　【試合後】（１）　【その他】（５）
上記変更に伴い、本文【その他】（５）①、②、④を変更
【競技を行うにあたって】（３）バットの内容を変更

Ｈ２４．８．７　【試合中】（18）⑩追加　（21）①変更
【その他】（４）⑨、（５）②に追加事項

Ｈ２５．８．６　【試合中】（17）③に追加事項　（21）②に追加事項
【その他】（５）④を全文削除

Ｈ２６．８．６　【試合中】（20）⑤変更　⑥追加　⑥追加に伴い⑥を⑦に、⑦を⑧に変更⑨追加
（21）①④に変更事項
（22）①②③④追加　（22）の追加に伴い（22）を（23）に変更

Ｈ２９．８．６　【試合中】(12)変更
(20)⑦の削除に伴い⑧、⑨を⑦、⑧に変更
(22)②の削除に伴い③、④を②、③に変更

Ｈ３０．８．７　【試合中】　(23) ９イニングまでに変更
【その他】　（６）③サングラス使用について一部追加

Ｒ１．１２．１４【競技を行うにあたって】(5)［ タイブレーク ］
【試合中】(21)の④
(22)の②
(23)７イニング（２１アウト）までに変更
【その他】（４）の⑨

Ｒ２．１２．２５【試合中】(23) 投手の投球数制限について
【その他】(5)①監督のスパイク

Ｒ３．１．１３　【競技を行うにあたって】
（４）決勝戦はコールドゲームを採用しない。⇒削除
※投球制限・熱中症予防対策のため、決勝戦もコールドゲーム適用。
（５）タイブレークも投球数制限適用。
【試合中】
（２０）⑥及び（２１）④及び（２２）②
タイブレークとなった場合は、１イニングに１回のタイム
（２３）投手の投球数制限について
タイブレーク時も投球数制限有り。

Ｒ３．１２．１１【競技を行うにあたって】
（５）一部変更、一部削除
（９）一部削除。「相手に勝利を与える。」を追加。
【試合開始前】
（４）⑦一部削除
【試合中】
（１０）一部変更。「予備捕手は立って捕球する。」を追加。
（１６）「４回終了後、メンバー用紙交換後」⇒「攻守決定後」に変更。
（１７）②⑦削除。④追加事項　（１８）追加事項
（２０）⑧、及び（２１）⑦、及び（２２）④を削除。
（２３）一部追加
【その他】
（１）一部追加　（２）削除　（４）追加事項
（５）一部削除、一部追加

Ｒ４．１２．１０【試合中】
（１２）「または捕手」を削除。
（１３）「但し」以下を削除。